

PHILIPPINES CAMP

2019 SPRING

2.27-3.27



reported by
FIWCkyushu



inSta.rosa,Tabango,Leyte



Contents

1.はじめに	p.1
2.F I W C九州について	p.2
3.重要人物紹介	p.3
4.スケジュール	p.6
5.ワーク	p.7
6.生活状況	p.29
7.係報告	p.31
8.ベストショット	p.41
9.感想	p.47



1.はじめに

みなさんはフィリピンについてどのようなイメージをお持ちですか。多くの方は、セブやマニラといったきれいで賑やかな観光地をイメージすると思います。しかし、実際のフィリピンはそんな観光地の何キロか先にはスラムが広がっていたりと、とても貧富の差が大きい国です。そんなフィリピンの農村部で私たち fiwc 九州フィリピンキャンプは共同生活、共同労働を理念に掲げ、活動しています。フィリピンでは何気ない生活の中にも、多くの村では行政の支援が不十分であるため、様々な問題が起きています。その問題に対して、まず私たちが実際に訪問し、村のニーズに身をもって触れてきました。その上で村人の生活が少しでも向上するためにワークを行う必要があると考えています。

ワークを行う上でキャンパー1人1人が村人との交流を深め、私たちの行う活動を理解してもらいます。そして、村人に寄り添いながら信頼関係を築き上げ、村人として一か月生活を共にします。単に村人の生活をよりよくするためだけに行うワークではなく、ワークを通して村人との交流を深め、共に**笑顔**でいられることを目指します。

参加の理由はなんでもいい。

あなたという色で、フィリピンキャンプというキャンパスを笑顔で染めてみませんか。

2018年度フィリピンキャンプリーダー 橋本尚樹

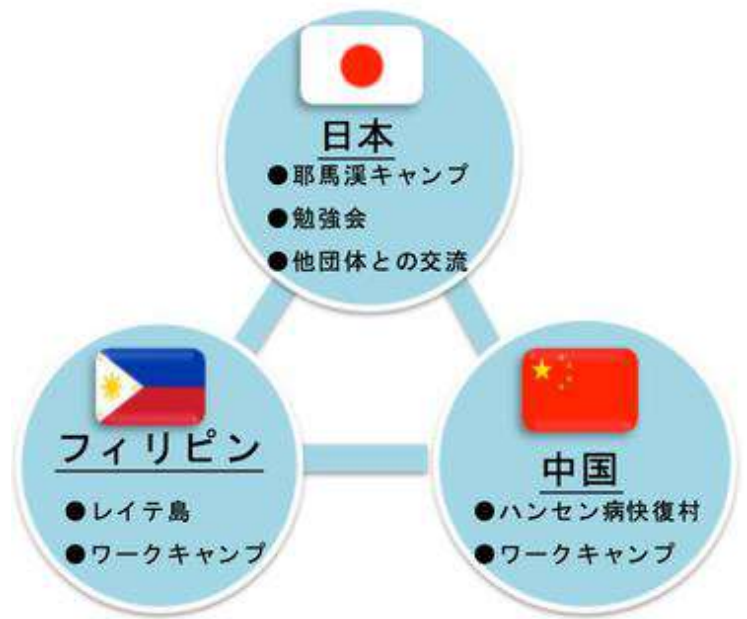
2. FIWCとは

Friends

International

Work

Camp



FIWC 九州は九州(主に福岡)の大学生が主体となり、学生のみで国内外で国際協力を行っている学生 NGO 団体です。

<国際活動>

○中国キャンプ

ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。

○フィリピンキャンプ

フィリピンレイテ島の貧困村を訪れ、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

○ネパールキャンプ

震災支援として、昨年度発足。震災復興の整備を行う。

<国内活動>

○耶馬溪キャンプ

年3回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。

○FP (FIWC Party)

月1回程度、博多の「びおとーぷ」で行っている勉強会&交流会。

○その他

学祭、まんぱ(Monthly Party)、総会、国内合宿 など

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴です。また、FIWC は九州の他、関東、関西、東海に支部があり、互いに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンパーだけでなく、国内活動も一緒に参加してくれる大学生を募集中！！

3.重要人物紹介



ロクロクさん

1996年からFIWC 関東のフィリピンキャンプに参加していて、FIWC 九州発足後は九州とともに活動している現地エンジニアさんです。

今回のキャンプ地であるサンタローサには、体調が優れなかったため頻繁に来ることはできませんでしたが、そんな中でも、常に私たちのこ

とやフィリキャンのことを考えてくれた、私たちのお父さんのような存在です。

リックリック

こちらはロクロクさんの息子、エンジニアのリックリックです。今回のキャンプにはなくてはならない存在でした。体が大きくて一見怖そうに見える彼ですが、陽気で優しくて話していてとても楽しいです！



ドドン

ロクロクさんの甥っ子のドドンです。ドドンもリックリックと同様にエンジニアであり、今回のフィリキャンになくってはならない存在でした。今は亡きドドンの父親もかつてフィリキャンに参加したことがあるそうです。ドドンの口癖は「yagayaga!」(冗談)。いつも冗談を言って私たちを楽しませてくれました。



ベンジョー

私たちが活動しているタバngo市のメイヤー(市長)。フィリピンについてすぐムニシパルを訪問しに行くとメイヤーは不在。なんと私たちと入れ違いで日本に旅行に行っていました！そんな日本のことが好きで親しみやすいメイヤーさん、忙しいにも関わらず私たちの活動にとっても協力してくれました。



シプリアーノ

今回のワーク地であるサンタローサのカピタン(村長)です。今キャンプではほぼ毎日ワークを見に来てくれました。とても優しくてかわいらしいカピタンです！



ジャンリー



チーフタノッドのジャンリーです。タノッドは村の自警団のようなものです。キャンプ中私達が滞在している balan gai hall の警備を夜通しでしてくれました。また、彼らのバイクでマーケットにも連れて行ってもらいます！

4. スケジュール

国内ミーティング

- 第一回:11/27(火) 20:30~@びおとーぶ
- 第二回:12/11(火) 19:00~@びおとーぶ
- 第三回:12/18(火) 19:00~@びおとーぶ
- 第四回:1/8(火) 19:00~@びおとーぶ
- 第五回:1/15(火) 19:00~@びおとーぶ
- 第六回:1/22(火) 19:00~@びおとーぶ
- 第七回:2/14(火) 19:00~@びおとーぶ



Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			2/27 先発組日本出国 韓国到着	2/28 韓国出国 セブ島到着 買材購入	3/1 午前:ソロイソロイ(散歩) 午後:work開始	3/2
3/3 GAM	3/4 work開始	3/5	3/6	3/7 FI関東訪問	3/8	3/9 Japanese Festival
WORK						
3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15 後発組出国 ロングミーティング	3/16 後発組到着
WORK						
3/17 表敬訪問	3/18 ホームステイ開始	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23
WORK						
HOME STAY						
3/24 モニュメント作成 事後ミーティング	3/25 Farewell Party	3/26 先発組村を出发	3/27 先発組帰国	3/28	3/29	3/30
HOME STAY						
3/31	4/1	4/2 後発組帰国				

5. ワーク

* ワーク概要

場所：フィリピン共和国レイテ島タバンゴ市サンタローサ村

内容：水道設備の作製と改善

期間：2月27～3月27日(滞在中の約20日間)

予算：約41万円



* ワークの目的と背景

この BRGY STA. ROSA は、水道設備に大きな問題を抱えている。雨が降る季節（11月～12月）になると飲み水の量は増えるが、日本のように、いつでもどこでも飲み水を手に入れることができるのではない。雨が降らない季節（7月～8月）になると飲み水はわずかな量になってしまう。飲み水の増える季節、少ない季節、とどの季節でも、村にある水道設備では村人は午前中の限られた時間にしか水を手にいれることができない。（午後になると水が出なくなることが多い）この問題を解決するために歴代の村長やカラヒと呼ばれるプロジェクトチームは、幾度となく水道設備のプロジェクトを行ってきた。しかし、そのプロジェクトで使った水源も現在では、ほとんどつぎえている状態である。そのために未だにこの村の水道設備は大きな問題を抱えているのである。

自分たちがこの村に参入するメリットとして、フィリピンの政党や日本の政府組織とは無縁という立場をとる自分たちが村の水道設備を改善し、この村で使える水道設備の1つとして整備し直すことで多くの村人が使用し、生活水準をより高めることができるということが挙げられる。去年の8月～9月にかけて自分たちは survey を行い、現地でワーク内容を決めてきた。しかし帰国後に村の中で政治が絡む問題が起き、その問題が自分たちの決めたワーク内容にも影響され、本来するはずだったワーク内容を変更しなければならぬ状況になった。そのため、現地のエンジニアが臨機応変に対応してくれ、ワーク内容を変更し、詳しい内容は現地で決定を行った。

今回は異例な状況での活動になってしまったが、ワーク内容の変更によって本来より多くの村人が平等に水を確保することができるようになった。

他にも、自分たちが水道設備を完成させるだけでなく、その後の村人が自分たちの手で水道設備を管理し、改善していく。つまり、村人が自立していくためのワークを目指していく。

* ワーク内容

実際のワーク内容は下記の4つである。（詳しい内容は下記記載）

STEP 1：水源の確保する

STEP2：フローリングまたはタブを作製する（両方行った場所もある）

STEP3：ポンプを取り付ける or 壊れたポンプを新しいポンプと交換する

* ワーク全体図

サンタローサ村は中心地である proper と、sitio KAWAYAN、sitio PANPAN、sitio BERIAROSE から成り立つ。

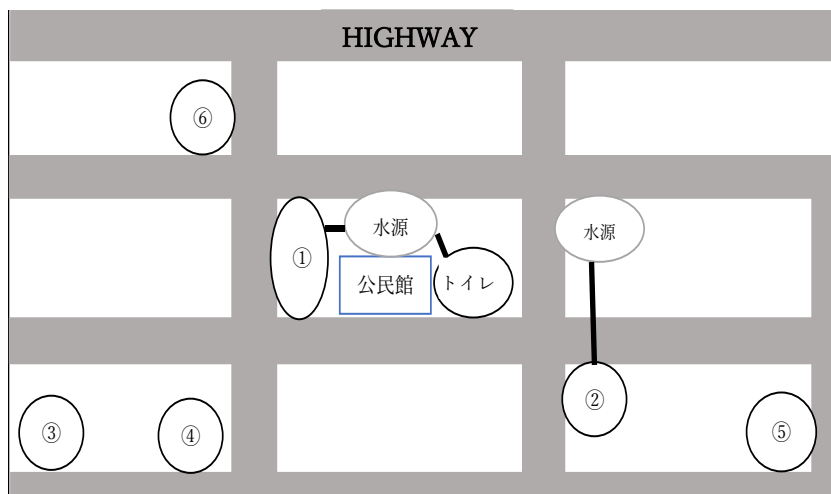
今回、私たちは予算と時間の関係上 proper と sitio KAWAYAN、sitio PANPAN でワークを行った。



日本人と村人一緒に日々ワークを行った。



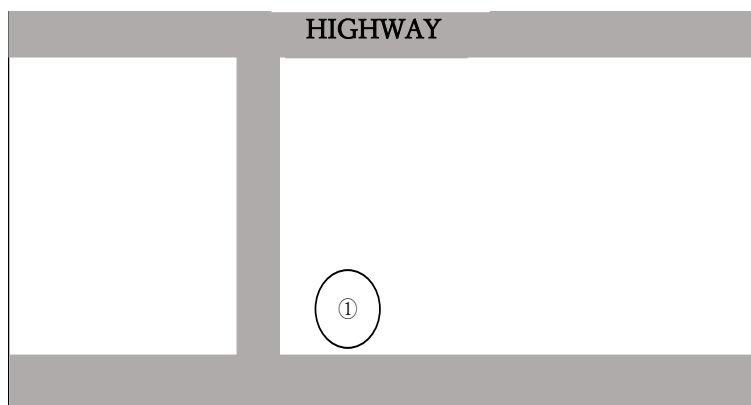
【proper の地図】



【ワーク内容】

- ①公民館のトイレ用の水の確保とタンクの作製、手押しポンプの作製とフローリング
- ②ポンプの作製とフローリングの作製
- ③ポンプとタブの作製
- ④ポンプの作製とフローリングの作製
- ⑤ポンプの交換とフローリングの作製
- ⑥ポンプの交換

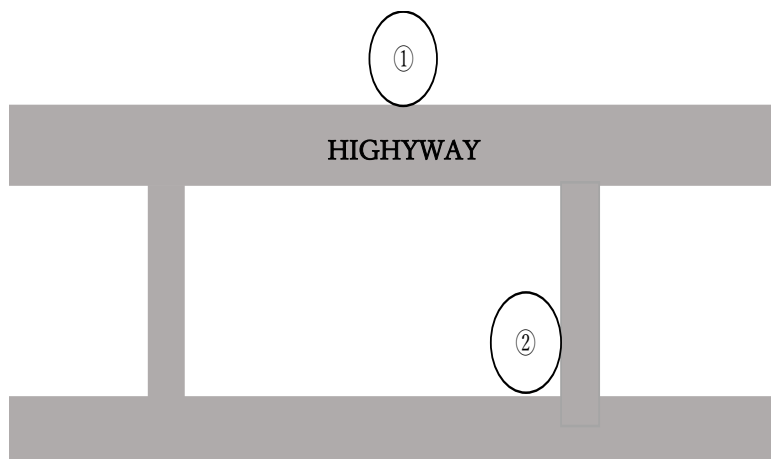
【sitio PANPAN の地図】



【ワーク内容】

- ①ポンプの交換

【sitio KAWAYAN の地図】



【ワーク内容】

- ①ポンプの交換とタブの作製
- ②ポンプの交換とフローリングの整備、水源からポンプまでのパイプの再編成

～完成一覧～

proper①

今回我々が作ったモニュメントはこれだ！！
自分たちの名前と現地エンジニアの
ロクロクさん・リクリク・ドドン・ポボン
の名前もしっかりと刻み、色を入れた。
また国旗とキャンプテーマの「湊」も入れた。
現地でモニュメントのデザインとカラー
をみんなで話しあい、決定した。



proper②



proper③



proper④



proper⑤



proper⑥



sitio PANPAN



sitio KAWAYAN①



sitio KAWAYAN②



*ワークスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
		2/27	28	3/1	2	3
		出国	資材購入	①	GAM	
4	5	6	7	8	9	10
→			②	Japanese festival		④
11	12	13	14	15	16	17
③	→			⑤	off	②③④
18	19	20	21	22	23	24
→	Sitio KAWAYAN	Sitio PANPAN		off	off	モニュメント
25	26	27				
Fare Well Party	帰国					

《1日のスケジュール表》

9:00 ワーク 午前の部 開始
 12:00 ワーク 午前の部 終了 お昼休憩
 13:30 ワーク 午後の部 開始
 16:30 ワーク 午後の部 終了

ワークの進行具合やワーク環境などに合わせて開始や終了時刻を前後させた。
 また、ワーク中にも休憩をとり、体調管理に努めた。



* ワーク過程

～地下水の確保～

proper①②③④のポンプの作製は同じ工程で行った。(上記地図参照)

まず、水源の場所を村人から教えてもらい、土地の所有者から許可を取る。その後作業を開始する。

1、あらかじめ地面をショベルで掘り、パイプを入れやすくする。



2、十分な地下水を確保できるまで手動で掘り進める。



(ドリルと繋がったロープを村人と一緒に
引っ張る様子)



掘鉄管も使って掘り進める。



十分な地下水を確保できたら、、、

3、モーターから出すことができない
大きい石が水と一緒に出る場合
ポンピングする。



大きめの石が出なくなったら
モーターを使って水を綺麗にする。



《完成》

～フローリングの作製とポンプの設置～

proper②③④⑤と sitio KAWAYAN①のフローリングは同じ作業工程で行った。

現地のエンジニアと我々の考えでは、新しく作るポンプ全てにタブを作る予定だったが土地所有者の許可を得ることができず、フローリングのみとなった。

1、木の板で枠を作り、金属バーで補強する。



2、セメント・砂・水・砂利を混ぜ、コンクリートを作る。



3、ポンプと水源を繋げるパイプを組み立てる。



4、コンクリートを流し込む。



5、水源からポンプまでパイプを繋げる。



(proper②のみ水源からポンプまでの距離が少しあった。)



6、ポンプをつける。
(ポンプの位置は場所ごとに異なる。)



《完成》

～タブの作製とポンプの設置～

タブの作製は proper③と sitio KAWAYAN のみ行った。

上記のフローリングが乾き次第始める。

1、タブ用のハローブロックを

置いていく。



2、排水溝用の穴を開ける。



3、タブの内側をコンクリートで仕上げをしていく。





《完成》

～ポンプの交換～

proper⑤⑥と sitio KAWAYAN①②は同じ作業工程で行った。

1、ポンプの周りのコンクリートを削る。



2、 壊れたポンプを取り外す



- 3、スイングバルブをつけ、
新しいパイプをつける。



- 4、ポンプの周りをコンクリート
で固める。



《完成》

～フローリングの整備と水源からポンプまでのパイプの再編成～

sitio KAWAYAN②のみ行った。

最初に水源からポンプまでのパイプの再編成を行う。

- 1、水源からポンプまで繋がるパイプ
が地面に埋まる深さまで掘る

(水源付近)



2、掘った溝にパイプを入れる。



3、コンクリートをパイプが入った溝に入れる。



4、水源口は村人の乱用から防ぐためコンクリートで固める。



次に、フローリングを綺麗に整備する。

(作業前)



1、大き目の石を入れて隙間を埋めていく。



2、その上にコンクリートを被せる。



3、村人が安全に使えるように仕上げをしていく。



《完成》

～公民館のトイレ用の水溜めタンクの作製～

タワーを建てる。

- 1、タワーも足を固定するため
コンクリートを削る。



- 2、金属バーを溶接し、組み立て、
タワーを作っていく。



- 3、足をコンクリートで固める。



- 4、金属バーに錆防止剤を塗る。



12、タンクをタワーにのせる。



13、タップスタンドをタワー付近に設置。



14、トイレにもタップスタンド

を設置。



*総括

今回のワークは、最初に述べた通り、政治的な理由により、下見の時に自分たちで決めたワークを行うことができないという異例の事態であった。大まかなワーク内容は決定していたが、現地に到着するまで具体的な内容は決まっておらず、多くのキャンパーが不安を持ったまま現地の村に到着したことだろう。しかし、現地エンジニアのもとで詳しいワーク内容を決め、開始してからは、天候に恵まれ、資材の到着も大きな遅れをとることなく、問題という問題も起こることはなかった。そして、無事水道設備の改善の全作業を完成させて帰国することができた。

生きる上で水は必要不可欠なものである。私たちがワークを行ったサンタローサ村では、下見に行った時点で山からの水源の水は少なく、今後10年も持たないだろうと現地のエンジニアから言われていた。また、村の地形や斜面によって山からの水を得ることができる家とできない家があった。他にも、山からの水が自分の家までパイプで繋がっている家と繋がっていない家が存在し、不平等な環境下で生活を私たちが手を加える前まで送っていた。しかし、今回自分たちが公共のポンプを作ることによって、村人が平等に水を得ることができるようになった。飲み水が出るポンプを作ることに成功したため、村人の生活の質が向上したことが目に見えてわかった。自分たちで決めたワーク内容をすることはできなかったが、決してマイナスなだけではない。村人の生活の中で不平等が生じていた点を改善することができ、むしろこのワーク内容に変更になってよかったと思う。ワーク終了後多くの村人から感謝の声と喜びがあがった。約20日間のワークの中でキャンパー全員が全力を尽くし、村人たちとの協力があったの、この素晴らしい結果を得ることができたのだと思う。皆の汗と想いが詰まった10基の water system が今後村人の手によって大切に使われ、そしてより、発展していくことをキャンパー一同心から願っている。



資材費の内訳

ポンプ

内容	個数	日付	値段 (円)
Eagle jetmatic pump supercast	2	2/28	13696
Campionpitcher pump	2	2/28	6872
Jetmatic dragon	2	3/18	8100
Jetmatic	3	3/18,25	23152

ガスケット

内容	個数	日付	値段 (円)
Pitcherpump gasuket	3	3/2,12	348
Jetmatic gasket	10	3/19	761

パイプ

内容	個数	日付	値段 (円)
Gi bushing reducer	2	2/28	87
Gi bow 3/4×45	3	2/28	261
Gi nipple 1×3	1	2/28	141
Gi nipple 3/4×4	1	2/28	102
Mech Gi straight elbow	1	2/28	196
Gi tuvelog ₂ 50mm	3	2/28	11154
Gi tuvelog ₁ 25mm	3	2/28	5059
Bushing red1/4×1	6	3/1	848
Pvc blue pipe1	15	3/1	4891
Pvc blue pipe1/2	15	3/1	815
SDR1	5	3/1	598
Gi bushing reducer 1×3/4	1	3/2	46
Blue pipe1/2	2	3/14	326
Blue pipe3/4	5	3/14	1033
Blue pipe1	2	3/25	652

バルブ

内容	個数	日付	値段 (円)
Clayton foot valve	5	2/28	2174
Swing valve	14	3/14,18,19,25	20365
Ball valve3/4	2	3/14	400

アダプター

内容	個数	日付	値段 (円)
Male adapt	5	3/11	272
Tvc blue male adapter	6	3/14	209
Tvc blue male adapter3/4	2	3/14	52
Male adapter1	10	3/14	544
Male adapter3/4	2	3/14	87
Female adapter	1	3/14	54
Pvc female adapter	2	3/14	65
Male adapter1p.e	2	3/14	500
p.e male adapter	2	3/18	191

エルボー

内容	個数	日付	値段 (円)
Gi elbow1/2	6	3/1	300
Pvc elbow1	20	3/1,14	1087
Pvc elbow1/2	12	3/1,14	391
Gi elbow1×45	3	3/14	228
Gi elbow3/4×45	1	3/14	72
Pvc elbow3/4	3	3/14	130
Gi elbow1	11	3/14,18	1554
Pvc elbow1/2	7	3/14	228

ティー

内容	個数	日付	値段 (円)
Gi tee1	6	3/1	1696
Pe tee	1	3/18	426

ブレード

内容	個数	日付	値段 (円)
----	----	----	--------

Hacksan blade	1	3/10	185
Makita blade	1	3/14	391

テープ

内容	個数	日付	値段 (円)
Shark thread seal tape	10	2/28	326
Tapelon1	16	3/14,18,25	1044
Tapelon 1/2	10	3/14	435

カップリング

内容	個数	日付	値段 (円)
Gi coupling2	2	3/1	191
Gi copling1	2	3/1	135
Gi cup1	6	3/1	848

Pvc tbb

内容	個数	日付	値段 (円)
Pvc tbb4	1	3/5	228
Pvc tbb	2	3/14	87

クランプ

内容	個数	日付	値段 (円)
F pvc clanp	10	3/18	109
Pvc clanp3/4	10	3/18	87

その他

内容	個数	日付	値段 (円)
ロープ 24mm×15m	4	2/28	2087
China welding rod 1/8 1kg	5	2/28	783
Bosch 5/16 hss-cobalt	2	2/28	887
Bosch 3/16 hss-cobalt	2	2/28	441
Wire duplex	150	2/28	5137
Anam outlet con3surf mt	1	2/28	194

Eagle male plug rubber	1	2/28	74
ドラム	1	3/1	4783
セメント	40	3/1	20870
スチールバー9mm	15	3/1	3750
Tie wire	2	3/1	348
Toilet bowl	2	3/1	25435
砂	3	3/1	8804
receptacle	3	3/1	228
Wa bulq	2	3/1	370
ハローブロック	150	3/1	5217
スイッチ	3	3/1	228
Stainless welding	5	3/2	283
Pvc union1	3	3/14	515
Safety breaker	1	3/14	1044
Bpoxy primer red oxide	1	3/14	498
M-laqubr hinner	1	3/14	109
Rosco drill bit 3/8	1	3/14	157
Rosco drill bit 5/32	1	3/14	83
Pvc union3/4	2	3/14	261
Gi parcet	3	3/14	4398
Pvc clip	50	3/14	380
Basurg pvd	5	3/18	815
ハローブロック	25	3/24	707
Doysen t/c hanza yellow	1	3/19	120
Doysen t/c latex Venetian red	1	3/19	100
Doysen t/c latex Lamp black	1	3/19	87
Doysen flat latcxlit	1	3/19	352
Ros bluebnim	1	3/19	1300
合計			205074

6.生活状況

サンタローサ村のとある1日



16:00 マーケット



ハバルと呼ばれるバイクタクシーに乗って市の中心部までお買い物

18:00 夕日を眺める



サンタローサは何ととっても海がきれい子どもと眺めたりオフの日には海リーゴも

20:00 ミーティング



都合によって時間はまちまちワークのこととか血洗い当番の確認とか

23:00 ぼちぼち寝ますか



バランガイホールでは床にごさをひいて雑魚寝するから、誰がとなりかは大問題

15:00

15:00 おやつ時間



おやつといえばバナナに砂糖をまぶしながら揚げて作るバナe! お水は必ずミネラル

16:00

17:00

17:00 お風呂(リーゴ)



ためた水(!)をかぶるのがこのスタイル日没後にやるのはなかなか地獄

18:00

19:00

19:00 夜ごはん



お祝い事の日には豚の丸焼き(レションパボイ)をみんなで食べる

20:00

21:00

21:00 ○○パーティー...?



エンペラドールというブランデーやサンミゲルというビールがうまい

22:00

23:00

7.係報告

☆イベント☆ (さお・みやの・ゆうた・池ちゃん)

~主な仕事~

Japanese Festival(村人と日本人の親睦を深めるために行うイベント)の
企画、準備、宣伝、司会進行

日時: 2019年 3月9日(土) 昼の部: 14:00~ 夜の部: 19:00~

内容: 昼の部:自己紹介、ゲーム、ダンス、歌、日本語教室、旗作り

夜の部:日本食試食会

~昼の部~

①自己紹介

日本人一人一人が立ってマイクを通して村人に自己紹介を行った。

②ゲーム

今回はじゃんけん列車と段ボールリレー、また、フィリピンのゲームであるトマトダンスゲームを行った。じゃんけん列車は現地の人々がじゃんけんを理解していたため、簡単なルール説明と実践だけでスムーズに行うことができた。段ボールリレーは下見キャンプで行っていたためこちらもスムーズに行うことができた。トマトダンスゲームとはフィリピンのゲームで男女のペア複数で、おでこにトマトを挟んでどれだけ長くトマトを落とさずにいられるかを競い合うゲームである。日本人、フィリピン人両者とも照れながら行い、大変盛り上がった。

《じゃんけん列車》



《トマトダンスゲーム》



③日本語教室

「かわいい」や「こんばんわ」など日常で使う日本語を画用紙を使って教えた。フィリピン人が元から知っている日本語もあり、教えた後、会話の中などで使ってくれた。

④ダンス

今回は「今日から俺は」で話題となった「男の勲章」を披露した。この日のために日本人皆で毎朝練習を行った。日本人の中から二人が女装して踊ったため、現地の人々もとても楽しんでもらったようだった。アンコールももらい、大盛り上がりとなった。



⑤歌

恒例のスピッツの「チェリー」を皆で歌った。歌詞カードを作成し、配った。人々はこの歌を気に入ってくれ、特に歌詞にある“愛してる”のフレーズが気に入ったようで、歌った日からたくさんの子供たちが「愛してる」と言ってくれた。

⑥旗作り

予め日本人の名前を記した旗を用意し、村人に名前を書いてもらった。

記念に残るものを作成することができて良かったと思う。

ただ、村人全員が書いたわけではないのもっと積極的に呼びかけるべきであった。



～夜の部～

○日本食試食会

今回は親子丼を作った。子供、大人両方に配った。予想していた人数よりも遥かに多くの人々が来たため、一人一人の取り分が少なくなりました。また、バランガイホールで行ったため村人が入りにくそうだった。味に関しては皆おいしいと言ってくれた。親子丼を配り終えた後、女子と男子に分かれて自由にお酒を飲んだりした。



～反省～

宣伝用のポスターを作成するのが遅く、宣伝するのが遅くなってしまい、序盤の集まりがあまり良くなかった。また、予定していた場所が当日になって使えなくなり、急遽当初予定していたバスケットボールコート隣の広場に変更した。場所が小さくなってしまったが臨機応変に対応することができたため良かったと思う。イベントの進行に関しては、最初はマイクを使ってもあまり声が通らず指示が通りにくかったが、村の青年たちの協力もあり、スムーズにイベントを行うことができた。ただ、子供たちの中には恥ずかしがり屋の子もいたため、その場にいた子供たち全員が参加したわけではなかったのもっと日本人が積極的に声をかけるべきだったと思う。夜の部に関しては、まず日本食の量が足りず、村人一人一人の取り分が少なかったり、食べられなかったりしたため、もっと多く作るべきであった。また、夜の部の明確なスケジュールを定めていなかったため、男女が分かれてしまったり、特定の村人としてしか交流しなかったりと本来の Japanese Festival の目的である日本人とフィリピン人との親睦を深める事にそぐわない形になってしまった。この事は今回の Japanese Festival の最大の反省点だと思われる。色々課題や反省点も出てきたが、全体としてはこのイベントは日本人とフィリピン人が仲良くなるきっかけになることができたと思う。



☆会計☆ (たけしよー・よっつー)

1. 会計の仕事内容

- ・キャンパーから生活費の徴収、管理
- ・現地での換金
- ・小さい額の札、小銭の用意 (額の大きい札は村では使えないため)
- ・毎日の収支の記帳、確認
- ・無駄な出費を防ぐため、領収書を必ずもらうこと

2. 会計の反省

- ・下見キャンプの反省だった、領収書の不足に関しては改善できた
- ・領収書を書く人が毎回違ったので、ずれが生じたときや、確認したいときに手間がかかった

→キャンプの途中から領収書に名前を書くようにした

キャンパー負担費用	
キャンプ参加費	円
生活費	18,000
個人費	10,000
予備費	10,000
航空券代	45,990
保険料 (個人差あり)	12,000
合計	95,990



生活費の内訳

収入 (P)		生活費	136,685	
		前年度繰越金	4,200	
		ワーク費繰越金	0	
		総収入	140,895	
支出 (P)	移動	バン	7,600	
		スーパーキャット	21,920	
		ハバル	4,400	
		トラック代	1,400	
		入港税	320	
		空港税	※ 1	
	生活費	食費	24,712	
		水	2,800	
		生活用品	961	
	イベント	Farewell Party	27,776	
		Japanese Festival	※ 2	
	通信費	SIMカード	2000	
	その他	返金 (先発)	40,000	
		返金 (後発)	3,300	
			総支出	137,189
			残金	3,706

※ 1 空港税は返金した金額に含まれており、各自で支払ってもらった

※ 2 Japanese Festival の食事の費用は、通常の食事と共有で購入したため、食費に含まれている

☆SP☆ (みき)

○仕事内容

- ・安全対策の手引きの作成
- ・毎回のミーティングで安全対策の手引きの読み合わせ（スライド作り）
- ・在フィリピン日本国大使館等の HP を頻繁にチェックして、安全確認とキャンパー全員へ情報共有をする
- ・加入する保険会社の提案、キャンパー全員の保険証券のコピー回収
- ・パスポートのコピー回収

本キャンプに向けて、下見キャンプの前後に安全対策の手引きの改定を行った。キャンパー全員の安全対策への意識を高め、共通認識をもたせることが一番の目的である。これに関しては、キャンパーの意見を取り入れたり、キャンプ地に合わせたりと、毎年改定していても良いと考えている。本キャンプ前にミーティングで安全対策の手引きの内容をひとつずつ確認したことや安全セミナーに参加したことによって、今回はキャンプ中に病気にかかるキャンパーは少なかった。FIWC 九州として安全管理について見直していこうということで、昨年 SP という仕事ができただが、これはキャンパー全員が元気に帰ってこれるキャンプを目指すには必要な仕事であるし、これからもミーティング時にキャンパー全員で安全管理について考える時間を設けることを勧めたい。

☆保健☆ (みき・さき・みなみ)

○仕事内容

- ・各種医薬品などを詰め合わせた保健バックリストの作成（紙媒体での配布）
- ・保健バック中身補充、管理
- ・保健カード準備
- ・キャンパーに体調管理の声掛け
- ・体調を崩したキャンパーの記録
- ・ワーク時のスポーツドリンクの準備

・保健バックの整理整頓を頻繁に行うべきだった。
・保健バックには入れていなかったが、普通の絆創膏よりもキズパワーパッド（少し高価）の方が有効なので、1箱入れてもいいのではないかと思う。

保健バックリスト

名称	種別	個数	下見使用量	本キャン追加
正露丸	胃腸薬	1		
手袋			複数枚	
おすだけノーマット	蚊駆除	1	少量	1
ピンセット		1		
爪切り		3		
レスキューシート		1		
体温計		1		1
キャベジン	胃腸薬	9包	-3	1
マキロン	消毒	2	-1.5	2
ビオフェルミン	乳酸菌の薬			
エクトール	下痢薬	4 8錠		
ガーゼ		1m		
メンタームペンソール	かゆみ止め	1		
かゆみとバイバイ	かゆみ止め	1		
ムヒの虫よけ		2		
ムヒ		2		
パブロン	風邪薬	1箱と少量残り	少量	1箱
綿棒		120本	紛失	1箱
飲料粉末		5袋	-1	10袋
軟膏		1	紛失	1
かきむしりガード		4枚	-4	
熱さまシート		2枚×8包	-5	適量
サニタリー袋				適量
オイラックス	鎮痒消炎薬	1 0 g		
包帯		5 m		
包帯		4 m		
サージカルテープ		9 m		1個
バファリン	頭痛薬	4 0錠		
ポケットティッシュ		9個	少量	10個
塩分チャージ		2袋	ほぼ無い	4袋
絆創膏		60枚	ほぼ無い	多め
バンテリン	外用陣痛消炎薬	3 5 g		
うがい薬				1
消毒用アルコール				1
経口補水液				8袋
石鹼				1
イブA錠	解熱剤			1箱

☆ホームステイ☆(さき・なり・よこちん・ひなこ・みゆ)

期間：3月18日（月）～24日（日）の1週間

スケジュール：16日までにホームステイハウスの調査完了

17日のMTGでホームステイ先決定

18日の夕方ホームステイ先へ移動

24日の夜 Barangay Hall へ移動

○仕事内容

- ・事前に日本でチェックシートを印刷しておく
- ・GAMでホームステイについて説明
- ・村長にホームステイできる家の候補を挙げてもらう
- ・ホームステイハウスの調査
- ・ホームステイ先の決定

○ホームステイ先決定までの流れ

① 候補選出

村長にホームステイできる家の候補を挙げてもらう。今回は5軒挙げてもらった。

② ホームステイ先の調査

チェックシートをもとに、家族構成、英語を話せる人はいるか、トイレはあるか、ペットの有無、受け入れ可能人数、男女の希望、部屋に鍵（又は金庫）があるか、の7点について調査した。今回は村長ではなく村役員に同行してもらった。

③ 希望調査

調査した内容をもとに各家ごとにまとめ、キャンパーに掲示し、第2希望までを書いた紙を提出してもらった。

④ ペア決定

今回は4人組が3軒、3人組が2軒の割り振りでペア決定を進めた。希望調査をもとにホームステイ係で公平にホームステイ先を決定した。

○反省

今回は3人組を6軒用意するつもりだったが受け入れ可能な家が5軒分しかなく急遽4人組が3軒3人組が2軒という割り振りになったが急な変更にもスムーズに対応できたと思う。ホームステイ期間中も特に大きな事故やトラブルもなくそれぞれの家庭で楽しんでいたのでとても充実した1週間になったのではないかと思う。

○ホームステイメンバー紹介



{ナンシー家} よこちん、みやの、さき、たいが	{マルコ家} にっしー、ひなこ、みなみ、たけしょう
{イムジ家} みき、さお、ゆうた、なり	{ローリーデル家} よっつー、はるか、みゆ
{右サリ家} げっしー、いけちゃん、あかり	

☆KP ☆(たいが・にっしー)

○仕事内容

- ① 洗濯、皿洗いのシフト作成
- ② 生活用品の管理
- ③ いただきます、ごちそうさまの号令

① シフト表の作成 洗濯4人、皿洗い3人

出発前、日本にいる間にシフト表を作成し、皆の回数が均等になるようにした。結果的にうまく回すことができた。

《反省点》

洗濯のシフトを組む時ワークリーダーをワークがない日に組んでおけば、シフト表を変更せずすんだ。あらかじめワークリーダーをワークがない日に組むのがベスト。



② 生活用品の管理

大きなゴミ袋の持参、トイレトペーパーの管理など

《反省点》

ゴミ袋は、70リットル20袋入りのゴミ袋で十分だった。しかし、トイレトペーパーに関しては、キャンパーがそれぞれトイレトペーパーを3ロール持ち込んでくれたけど、最終的に足りなかった。日本とは異なった環境で生活することに体が慣れず、お腹を壊したキャンパーが多かった。その為、もう少しkpで用意するか、キャンパーそれぞれが持っていくかを決めておくべきだった。



③いただきます、ごちそうさまの号令

《反省点》

ご飯の時、全員がそろわなかったときもあるが、比較的しっかりできていたと思う。

8.ベストショット













9.感想

げっしー

私は学部一年生の春休みと二年生の夏休み・春休みの計三回この活動に参加した。私はボランティアという言葉は本当に嫌いだったし、今でも嫌いなことは変わらない。不特定多数に向けて何か行動するのは、結果も見えないし、何よりやってあげたという気持ちが勝ってしまい、自己満足なのではないかと疑ってしまう。しかし、その単なる偏見だけで毛嫌いしてるのもなんか癪に触らなくて、何も行動しないのもそれはそれで違うような気がした。そこで、特定の人なら自分でも納得して行動を起こせるのではないかと思って、一年生のころ本キャンプに参加した。

フィリピンに着いたら、そこにはこれまでの発展途上国に対する偏見を覆す世界が広がっていた。最初は下見キャンパーを通じて、村人と交流していた。その時は、まだ連れて行ってもらったという感覚で正直言えばまあ楽しいくらいだった。しかし、村人と仲良くなるきっかけは思いがけないところにあった。それはワークを進めていく中で青年と話したことだった。話したといっても、どちらの母国語も使えないので軽く話した程度だったが、その出会いが私のフィリピンに対する思いをかえてくれた。時には歌ったり、時にはバスケしたり、それがいつしか当たり前になって、自分が村人に対して勝手に作っていた壁はなくなり、自分らしく過ごすことができた。また、日本ではまず見ることのない孤児や水という日本では当たり前のようにあるものに困っている村人は、不謹慎ではありますが自分に衝撃を与えた。その子の家には資金の都合上パイプが届かず、このワークが完成しても大きな貢献はできなかった。そんな状況をみたら、悔しいという言葉が出てくるが、その言葉は綺麗事で結局誰も行動には移さない。昔の自分もその一人で、単なる1カ月にたまたま出会った人でその人に対してそれ以上の感情は湧かなかっただろうが、その時の自分はとても悔しい思いをしたのを覚えている。自分はこの経験を通じて、フィリピンキャンプに行ってよかったと思えた。何も意識せず暮らしていても、時間がたてばプロジェクトは完成しており、意識していなくても人のためになっているこの活動に、私は一か月で心を惹かれていた。そして大学2年生はフィリピンキャンプに1年間費やそうと答えを出すのはあまりにも簡単だった。しかし、この一年間は我慢の連続だったと思う。8月のsurveyが全く無駄になったこと、それに対す



る助成金の申請の変更をすること、バヤニハンが少ないこと。いろいろなことがこの一年間自分を試しているかのように襲い掛かってきた。時には人に当たり、時には自分を責めた。そんな一年であったが自分の思う通りに事を進めることができたと思っているので、やり残したということはない。この一年は全力でフィリピンキャンに向き合い、全員が全員、達成感があったキャンプとはなんだろうかと考えていたし、行動もできたのではないかなと思う。

この活動に対する意見として、日本人が滞在するだけで金銭的に大きな影響を与えてしまうそんな村で、それよりも大きな影響を与えるワークをするこの活動に軽い気持ちで参加してはいけないんじゃないかと言われることが多々ある。しかし、そんなにきれいな気持ちを持っている人なんて少なく、単なる興味で参加している人が大半を占めている。そんななかこの活動が続いている意味こそ、国際協力とはなにかという概念に繋がっていると思う。それはみんながよくフィリピンキャンプについて話すときに口にする楽しいという言葉に詰まっている。どのような志向を持っている人でも1カ月の滞在は楽しくて、村人一人一人が家族であるかのような感覚になれた。そして来年も・・・という人たちの連続でここまで続いているのだろう。この活動はボランティアではなく私たちの家族を助けるための活動、これが国際協力なんだと私は考える。

最後に突然ですが、あなたがフィリピンと聞いたとき何を思い浮かべますか。私はフィリピンを一言で表すと「笑顔」と答えます。日本では多くの人がお金を稼ぐために働いていて、だから日本では、貧乏だったら大変な人生だったんだねと不幸であるように言われてしまいます。それが発展途上国ならなおさら都市と村で格差が広がっているのも、不幸と決めつけていた自分がいました。今回滞在した村でも格差というものもあり、ごはんを食べてない家庭も存在していましたが、なぜかみんながみんな笑顔でいて、そんな様子は微塵も感じさせませんでした。どんな人でもどんな時でも、笑顔でした。その笑顔の理由が私達じゃなくても、どんな時でも笑顔でいてほしいと綺麗事ではありますが本気で思っています。でも、ちょっと欲を言うと笑顔の理由が私たちの活動だったらいいのになと思って、この一年は取り組んできました。笑顔の多いこの国でも、一つでも多くの笑顔のきっかけになれば行動してきました。また、フィリピン人だけでなく日本人に対しても同様に考えていて、どんな経緯で参加したとしても、日本人も含めてみんなの笑顔のきっかけになることがこの活動のゴールだと考えています。みんなは、笑顔になれたのかな。これからの人生の中で見れば単なる1ヶ月ですが、この活動を振り返ったときに、みんなが笑顔になれているのなら嬉しいです。

私は、この一年間に多くのフィリピン人・日本人に会い、そしてその人たちの笑顔に会った。あなたたちに出会えて幸せという意味を知った。あなたたちのことが大好きです。

“What did you come here for? “ ”I just come to make you smile ! “



あかり

「あっという間だった。」

今回のキャンプの感想を一言で言うなら、私はこれを選ぶ。

今回のキャンプはいくつかの異例が交じりに交じり合ったとても内容の濃いキャンプだった。現地に着いてからは毎日があっという間に過ぎていった。気付いたらあと2週間、気づいたら日本に帰る日。何故こんなにも時間が経つのが早

いのか、ゆっくり時間が進んでほしいと何回思ったことか。しかし、毎日が新鮮で楽しくて、とても充実していた。今回でフィリピンキャンプは3回目になるが、その時その時の自分の位置が毎回違ったため、1年を通して、いろんな視点からフィリピンキャンプを見ることができた。

本キャンプまであと何日と数えやすくなってきた頃に、ワーク内容を変更すると聞いたときのショックは大きかった。正直に言うと自分たちで決めたワークを行いたかった。しかし、変更したワークを完成させた今、自分たちで決めたワークより、多くの村人たちの生活を以前より快適にすることができたのでとても満足している。また、臨機応変に対応してくれたロクロクさんにはとても感謝している。そして、ロクロクさんの存在がどれだけこのキャンプには必要なことかがよくわかった1か月であった。

私は、前回の本キャンプで味わったワークの疑問や後悔をもって、下見に参加した。そしてそれらをなくすためにワークリーダーに立候補した。毎年、ワークリーダーは完璧に役職をこなし、みんなから尊敬される存在である。だから、自分もそうになりたい、そうならないと、とかっこいいリーダーになろうと必死だった。下見の時は求めすぎて、自分ではなくなっていた時期もあった。今では良い思い出になった。こうやって今言えるのは、キャンプ行く前、行ってから自分らしくいれたからだと思う。そうなれたのも話をきいてくれた家族や友達、間違っている時にはちゃんと言ってくれる下見メンバー、そしてついてきてくれた新キャンパーのおかげだと思う。みんなにとってかっこいいワークリーダーにはなれなかったが、このメンバーでキャンプし、ワークを完成することができてよかった。そして、本キャンプ中ワーク内容についてしつこく何度も質問しても優しく教えてくれたリクリクやドドン、どんな時間帯でもお家に入れてくれて一緒にコーヒーを飲んでおしゃべりをしてくれる村人にも本当に感謝の気持ちで一杯である。私はこのキャンプを通して周りの人に何度も助けられた。「人は1人じゃ生きられない」学校の先生の話や歌の中でよくこの言葉が出てくる。確かにその通りだな、と改めて感じた1年であった。

daghang Salamat!!!!!!

よっつー

ちょうど1年前、初めてフィリピンへ行くときには、1年後また自分がフィリピンにいるなんて想像してなかった。初めてフィリピンを訪れて、人々とかかわる中で体感した日本では味わうことのできない一種の感動のようなものが忘れられない。というのも、自分が何度もフィリピンへ足を運んだ理由の一つだろう。少し言葉は悪いが、フィリピンの人々は日本と比べて全体的に貧しい。しかし、フィリピンでの生活は日本より断然楽しいし、何と言っても貧しいことを悲観的にとらえている人は少ない。フィリピン人はみんな笑顔で毎日を楽しんでいる。と個人的に感じた。これもまたフィリピンという国の魅力の一つかもしれない。



今回のキャンプについては、下見の時点で決定したワークが諸事情によってすべて変更になったり、ロクロクさんの体調が優れなかったりといろいろと問題はあったけど、無事最後までやり遂げられたのは本当に良かったと思う。リーダーとワークリーダーは例年よりも大変だった中、本当にお疲れ様！このキャンプを終えて自分が一番達成感を感じた瞬間は、去年と同様で、バヤニハンとともに完成させたウォーターシステムやポンプが、彼らの日常生活で使われているのを見ることだったり、一番は村人から直接『Salamat』と言ってもらえることである。なぜ何度も自分はフィリピンへ行き、フィリピンの田舎村で人々を助ける活動に参加しているのだろうか？と何度も考えた。おそらく、一番はすでに書いた達成感を感じた瞬間に自分は何かしらのやりがいを感じていて、それこそが自分が何度もフィリピンへ行く理由だ。また大好きなフィリピンの地に戻りたい。

Gusto ko balik sa pilipinas..

みゆ

1年前フィリキャンに参加して、フィリピンが大好きになったし、キャンプのことをもっと知りたい、そして次はキャンプを作り上げ、新キャンパーを引っ張っていけるような存在になりたい。と思い、今年度のキャンプを下見から参加することに決めた。



「今年のキャンプはチャレンジだ。」ロクロクさんはよくそう言っていた。下見から帰ってきたあとに村とオーナーの問題から計画していたワークが全て変更になり、村からの予算も当初の予定から変わってしまった。また、ロクロクさんの体調不良によるキャンプの不参加。20年間続いているフィリキャンの中でもはじめてなことだらけ。もしかしたら今年度のフィリキャンはなくなっちゃうんじゃないかって思ったり、新キャンパーに心配をかけてしまい申し訳ないな、下見キャンパーとしての責任を果たせてないなって思ったりした。また、私は学校の実習で最初からキャンプに参加することができず、今回1番大変な時期に協力することができず悔しかった。(しかし、本当はキャンプに行けなかったところをはるかさんが後発で一緒に行ってくだ

さり、晴れてキャンプに参加することができたのはとてもとても感謝している。)

キャンプがはじまりみんなから遅れて村に到着しソロイソロイ(お散歩)をした時に、たくさんの方々が今回のワークで作ったポンプを使って水浴びや洗濯をしているのを見た。そして「ありがとう、家の近くにポンプができてとても助かったよ。水は生きるためにとても大切だからね」と声をかけてくれた。大変な中でもキャンパーのみんなやバヤニハン(ワークを手伝ってくれる村人)がたくさん頑張ってくれていた。そしてそれが村人の生活の一部になっていることが嬉しかった。

最後にだが、実は私たちのキャンプ中、市の事業で私たちと同じポンプのワークが始まっていた。私たち FIWC の理念は、村人・バヤニハンとの共同生活・共同労働、つまりボランティアだ。しかしその市の事業に参加した人は給料をもらうことができる。私たちが村を離れる日、私は1人で最後のソロイソロイをしていた。その時、市の事業をしているのが目に入った。そこで働いていたのは昨日までバヤニハンとして私たちのワークに参加してくれていた村人たちだった。どうして昨日まで給料のでない私たちのワークに参加してくれていたんだろう。そのことをずっと考えていた。「学生団体だからこそできること」...? 私たちはワークに関する技術も知識もない素人の学生だからできることは限られている。ワークにあまり参加できない、自分が来た意味はあるのだろうか? という疑問を持った新キャンパーがたくさんいたと思うし、去年自分もそう思っていた。でも、私たちには他のどんな技術や道具の整っている団体にも負けないところがある。それは村人への愛だと思う。私たちは大好きな村人を思いながらワークをするし、その姿を見た村人が手伝ってくれる。そんなふうにして一緒につくりあげた大切な9つのポンプが村の活性化、自立促進のきっかけになればいいな。そしてそれが「学生団体だからこそできること」なのかな? 答えなんてないし分からないけど今自分はそう思っている。

常にフィリピンフィリピンの1年が終わり、すごく寂しかったり、でもちょっとほっとして

いたり。この1年の間で日本にもフィリピンにも大切な人がたくさんできた。みんな本当にありがとう。絶対また会いに行く！！

みき

フィリピンキャンプの写真を友人に見せていると「フィリピンにいる時の光希って、生き生きしてるよね」と言われたことがあった。そう言われてみると、フィリピンにいる時の方が日本にいる今よりも何倍も笑っているし、ありのままの自分である気がする。そんな自分を作り出しているのは、すべて村人のおかげであると思う。あの笑顔で溢れる環境にいると自然と私は笑っているし、心の底から毎日が楽しかった。そして日本に帰ってくると、フィリピンに戻りたい、村人に会いたい、あの笑顔が恋しい。そう思ったのが、私がこの活動を続ける原動力になっていた。本キャンプでは事業を完成させて、さらに多く、村人たちの笑顔を見れたらいいなと思い、1年間モチベーションを保ちながら頑張ってきた。振り返ると、本当にこの1年間は常にキャンプのことを考えていたなと思う。1年前とは違い、今年度は下見キャンパーとして参加したため、キャンプを作り上げるための多くの仕事があった。自分のやれることは、全力を尽くしてやってきたが、そこには色々な人の助けがあった。このキャンプに関わってくださったすべての方々に感謝しています。ありがとうございました。

次は、私が特に時間をかけた仕事について話したい。それは、キャンプの安全管理について見直そうということで生まれたSPという仕事である。海外に行くと危険はつきものだが、キャンプ中に何かが起こっては困る。長年続いているこの活動を続けていくことができなくなるかもしれない。ほとんど知識のなかった私は、病気や保険などについてたくさんネットで調べた。はじめは、ネットで検索した言葉は難しいのが多いし、どういう立ち位置でものを言えばいいのかも分からないし、手探りの状態が続いていた。1年間終えてみると、このキャンプに関わらなかつたら知らなかつたらろ分野の知識も増えたとし、裏でキャンプを支えるようなやりがいのある仕事だった。そして、私自身も1回目、2回目のキャンプも何らかの病気にかかった苦い思い出があるからこそ言える。キャンプを楽しむために1番必要なのは、やはり健康だ。

今回のワーク内容は報告書を見ていただくと分かると思うので、詳しい説明は省略するが、ポンプの製作と交換を中心に行った。このワークによって、村人に与えた影響というのは様々あると思うが、私が身をもってホームステイ期間中に体験したことがにあった。私のお世話になった家は、生活用水は大きめのペットボトルに水を汲みに行きそれを運ぶといった作業を、1日に何度も何度も繰り返していた。私たちも、自分たちが水浴びで使用する

水を汲みに行っていたのだが、体力も筋肉も全然ない私にとってはそれだけでも一苦労だった。こんなに重たい水を10歳前後の子どもたちやおばあちゃんも運んでいたのかと、彼らのパワフルさに感動するとともに、「肉体的に負担」というのはこのことかと分かった。そして、ホームステイ期間の最後の方には、この家のすぐ近くに新しくポンプが完成した。水を汲む場所が何十メートルだけでも距離が近くなっただけで、以前よりは時間短縮・肉体的負担の軽減はできたと自分が身を持って経験したからこそはっきりと言える。このように、他人事ではなく自分に繋がっていること、自分も当事者となることが、とても大切なことであり私たちの活動の長所だと思う。



他にも、この活動の良さは色々あると思っている。フィリピンキャンプが行っているのは、インフラ整備であるが、学生団体は行政のように、公平に社会全体を見渡して、事業に大きな額をかけることができるというものではない。しかし、この活動だからこそ、自分たちの耳で村人のニーズを聞き、個々に応じた取り組みができ、事業を協力して完成させて、目の前にいる人たちの笑顔を見ることができる。共に働き、生活していく中で国境を越えた友人や家族のような存在ができる。つまりは、「温かい人間関係」を築くことができるのだ。事業が終わって、日本に帰国する時には「次はいつ帰ってくるの？」と、また会える日を心待ちにしてくれる人がいるのだ。私の場合だと、この言葉を言ってくれる人はおばあちゃんと村人たちしかいない。なかなか会えないけど、大切な存在。いつになるか分からないけど、笑顔溢れる場所にまた帰りたいたいと思う。

さき

3回目のフィリピンキャンプ。初めてキャンプに参加した時から1年が経った。

あっという間の一年。そしてあっという間キャンプ一か月だったように思う。

3回目ということもあり、フィリピンに対しての新鮮味はほとんどなく、またやってきたという感覚で、いい意味でフィリピンがとても身近なものになっているんだなと心から感じ嬉しくもあった。

下見キャンパーとして参加して、3つの村から1つの村を決めるときみんなで相当な時間を費やして村を決定した。残りの2つの村を見捨てたわけではないが、なんだかすごく心苦しくて、そのときのことは今でもすごく覚えている。だからこそサンタローサ村でのワークを

ちゃんとやり遂げなければならないという思いで今回のキャンプにのぞんだ。ワークは毎日順調だったのかといわれると自信を持って YES とはいえず、本当に完成するのかどうか不安でいっぱいだった。しかし完成できたのはやっぱり村人のおかげといっても過言ではない。いろいろな面で村人と一緒に共同労働ができたからだ。スキル面でももちろんだが、そのほかにも毎回ジュースやお菓子を差し入れて持ってきてくれる人もいれば、おもしろいことをして場を和ませてくれる人もいる。そして子供たちの無邪気な笑顔に癒されたり、ワークキャンプって村人との関係が、より密になれて家族のような存在になれる。1回か2回話したことがある人でも名前を覚えてくれてたり、家に招き入れてくれたりする。これが楽しくて、嬉しくて、わたしはこうしてフィリピンに何度も足を運んでいるんだと思う。私たちも、そしてフィリピン人もお互いが家族のように思っている。常に温かい気持ちで包んでくれている、お金だけの支援では到底図り切れないものがこのワークキャンプにある。今回のキャンプテーマ「湊～MINATO～」この言葉にこめられた思いは、簡単に説明すると、“水があるところに人が集まる”まさにわたしたちは今回のワークで9か所のポンプを設置又は交換をした。この9つそれぞれの場所を村人が必要としてくれて自然と人が集まり、今すぐにじゃなくても今後何か村の活性化だったり、村人が動き出すきっかけになってくれたらわたしはこのワークをした意味があると思う。



下見キャンプからこのキャンプまですべてが楽しいだけじゃない。本気でぶつかるし、本気でバカし合う。本気になれる最高の仲間がいる。今まで一緒に頑張ってきた下見メンバー、未熟な私たちを応援してくれた先輩方、そして1度も反対することなく、3回もフィリピンに行くことを温かく見送ってくれた家族、キャンプにかかわってくれた方々みんなに感謝しています。本当に SALAMAT!!!そしてこれからもよろしくねん、いつかまたみんなでフィリピンへ行こう！

にっしー

この1年を振り返って感じたことは下見と本キャンの2回を通してキャンプは楽しいだけではないということだ。

今回は2度目のフィリピンということもあり、前回とはまた違った感覚だった。下見は何もかもが新鮮で純粋にフィリピンという国と人々との交流を楽しんでいた気がする。本キャン

ンでは下見を行った後に感じていた新キャンパーという立場への甘え、survey 時の自分の力不足、もっとやれたという後悔の3つを絶対に繰り返さないと心に誓って臨んだ。それゆえに下見の時はあまり深く考えずに楽しんでいた面が、本キャンでは度々考えさせられる部分があったので下見より内容の深いキャンプのように感じた。

今キャンプは自分にとって初日から激動の日々だった。なぜなら、ワーク会計の役を担っていたため、資材をオルモックに着いてすぐを買う必要があったからだ。みんながご飯を食べている中、げっしー、あかり、ロクロクさんの3人で資材を買いにオルモックを歩き回ったのは少しきつかったが、ついにキャンプが始まったんだという実感がすごく湧いてきた。

終盤、プロパーのワークをしている途中から自分はワークに対してのやりがい、達成感に物足りなさを感じてしまった。みんながワークをしている中、ワーク会計として資材を買いに行き、村に戻るとポンプが完成しているということが多々あった。ワーク会計をしている以上これは仕方のないことだがワークへ参加している気がしないのは本当に辛かった。さらに、フィリピン人とのスキルの差によって生まれる日本人が何もできない時間があったことによって、よりワークへの参加率が低くなっている気がして、自分の力不足への悔しさが募った。前回の反省として、後悔は絶対にしないと決めていたし、現地で2週間目に行ったロングミーティングでも達成感や後悔について話し合ったにも関わらず、この後悔が生まれてしまった。こんなことを書いているとキャンプが楽しくなかったんじゃないかと勘違いされてしまうかもするが、そんなことはない。むしろ、自分はワーク会計をしていて良かったと言える。なぜなら、ワーク会計をすることによってどんな所にお金を使ったか、何を買ってそれをどのように使うのかを深く理解することができたし、このキャンプのワーク費すべてを自分が管理していたんだと考えるとなぜか仕事してたぜ感がすごいからだ（笑）こうして感想を書いている中で切実に思うのはついに怒涛の1年間が終わり、キャンプが終わるんだなあという実感だ。正直、この団体に1年生の頃から参加できていればどうしても考えてしまう。キャンプにもう1回行きたいその思いが強く、今2年生ならあと1回行けたのにとあれほど後悔について書いたのにまた後悔してしまっている（笑）

これまでに書いた楽しさや苦しさ、トラブル全てを含めてキャンプの魅力だと今なら自信をもって言える。つぎのキャンパーにはそれを感じながらキャンプ中に自分の直面した困難や苦しさから簡単に逃げ出すのではなく、自分が今していることの意味や初心、色々なことを考えながら粘って粘って耐え抜いて欲しい。最後に18人のキャンパーとフィリピンキャンプを一緒に経験できたことが本当に幸せでした。ありがとう。



さお

今すぐフィリピンに帰りたい。

日本に帰国してからこの言葉しか私の頭にはない。最近はどうやったらフィリピンに移住できるか真剣に考える日々。村人たちとバイバイした直後はほんとに心にぽっかり穴が開いて、うまく笑えないくらい寂しくてお別れしたくないほどだった。そのくらいこのフィリピンキャンプに参加してからフィリピンにはまった。2018年の夏、下見キャンプから参加しよう決めて本キャンプが終わるまで、自分たちの納得いくものとして終わるのかっていう不安もあった。今回のキャンプで終わりにしようとも思っていた。だけど一つ一つポンプが完成して行って、その完成した直後から村人が水を汲みに来るのが凄く嬉しかったし、久しぶりに大好きな村人と会っていつもの冗談ばかり言い合って、大好きな人たちとたくさん時間を過ごしていくうちに日本帰りたくない。絶対この場所に戻ってきたい。ていう気持ちが膨らんで行って抑えられなくなった。どうしてこんなに私は惹きつけられるか私にもわからないし、語彙力が乏しい私には言葉で表すことはとても難しい。だけど一つ自信をもって言えることは行かなければよかった。と思うことは100%無いということ。せっかくの夏休み、春休みの半分もこのキャンプに費やすのか〜と気が引ける人もいると思う。だけど今までキャンプに行ったことある先輩全員が口をそろえて「キャンプで過ごした一か月間は本当に宝物で無駄なわけがない」というと思う。

ずっと日本にいたらそのなかで自分なりの幸せって人それぞれあると思う。私にもそれなりにあったし。だけどフィリピン行って自分の考え方は凄く変わった。フィリピンは途上国だから日本のほうが全体的にきれいだし住みやすい。って私の周りの人は良く言うし、それが一般的な考え方なのかもしれない。だけどそんなのどうでも良くて、あの国、あの村、あの人たちが大好きでもう一度、一度といわず何回でも会いたってなるのがこのキャン

プの魅力だと私は思う。サンタローサ村で過ごした時間は、私に活力を与える。この活力を自分にどう生かしていくか、意味のあるものにしていくために考える時間を持つこともこのキャンプならではの醍醐味だと思う。

二回フィリピンを訪れたけど村人ともっといろんな話をしたい。現地のまだ私が知らない話を聞きたい。と強く思う。だから言語を次村人たちに会うまでに猛勉強しよう今私は奮闘中である。

このキャンプと出会えて私は幸せ者だ。



たいが

参加した理由はいろいろとあるが、主に大学生の間に海外で何かしたいと思って、せっかくの長期の春休みだから、何か経験したくて今回このフィリピンキャンプに応募した。

出発前、自分は水道に関することは何もわからないので、フィリピンに行って何ができるのだろうか、フィリピン人と馴染むことはできるのか、フィリピン人は果たして我々を歓迎してくれるの

だろうか、と疑問に思っていた。また、出発前ワークに関するミーティングをキャンパー間で何度も行ったが、フィリピンに行ってワークしている自分が想像できず、これで大丈夫なのかと不安に思うこともあった。しかし、いざフィリピンでの生活が始まると、不安はすべて払拭され、自分が想像していたことと違った日々を過ごした。

村についた時から、我々日本人のことを歓迎してくれて、「前一度会ったことあるかな？」と思うくらい村人は我々とコミュニケーションをとることに積極的で、思っていたよりもすぐ馴染むことができた。これは昨夏にサンタローサに滞在した下見キャンパーが村人と良い関係を築いてくれたおかげで、新キャンパーが最初から村人と問題なくコミュニケーションをとることができた。このような環境をつくってくれた下見キャンパーには感謝したい。文化、習慣、環境など様々なことが我々と異なる生活をおくっている村人との交流が楽しかった。フィリピン人はいつも明るく常に笑顔で接してくれて、フィリピン人のフレンドリーなところ、優しさを感じることができた。世界中の人々がフィリピン人のように明るくなればいいのと思うくらい明るく優しかった。また、サンタローサの人々は英語を流暢に話すことができる人が多く、英語勉強している自分にとっていい刺激になった。

だが、楽しいことだけではなかった。特にワークに関してだ。日本人が現地に行ってワークでできることは思っていたより限られていて、現地の方に頼ってしまう時もあり、そこで大きな壁を感じた。仕方のないことでもあるが、何か歯がゆかったことを今でも覚えている。だが、いまさらそんなことを言ってもしょうがないと割り切って、ワーク後半から自分ができることを全力でしようと思いつく転換した。結果的にワークを成功させることができ、一つの目標に向かって、フィリピン人と日本人が共同活動によって、達成できたということが自分の中で非常にいい経験になったと思う。

気づけば1ヵ月はあっという間だった。日本では絶対に経験できない濃い一か月だった。キャンプが終わった今、キャンプの余韻が頭の中に残っていて、何かさみしさを感じている。あんな充実した日々大学生活であっただろうかと思うくらい充実した日々を過ごした。このキャンプを通じていろいろな形で自分として成長することができたと感じている。またサンタローサの人に絶対会いに行く。



みやの

このフィリピンキャンプは私にとって初めての海外だった。率直な感想としては楽しい、とにかく楽しく、充実した一か月間だった。出国する前は色々な不安があった。国内でのミーティングの際に下見キャンパーがあまりにも仲が良く、この輪の中に入れるのか、皆と仲良くなれるのかなどと言った不安があった。今回のメンバーは初対面の人や話したことのない人が殆どでとても緊張していた。しかし、一緒に過ごしていくうちに皆と仲良くなることができた。また、初海外だったので食事やお風呂の面などの不安が大きかったが、すぐに慣れることができ、予想していたよりもフィリピンを楽しむことができた。



ワークに関しては国内でのミーティングで決めた内容と違った内容だったので正直ワーク内容を理解することに時間がかかった。また、自分が想像していたよりも私達日本人ができることが限られていて、無力だと感じ、精神的にきついつと感じる時もあった。しかし、ポンプを完成させたときの達成感や、村人が使っているのを見た時の喜びは今まで経験したことがないほど大きいものとなった。

フィリピンに来てたくさん楽しいことがあったが、何よりも子供たちと遊ぶことが楽しかった。子供たちの純粹無垢な笑顔に毎日癒された。毎日のように「可愛い」と言ってくれて、日本では絶対体験することができないので嬉しかった(笑)満面の笑みで名前を呼んでくれて心の底からフィリピンに来てよかったと思い、フィリピンが大好きになった。

また、フィリピンに行ったことで日本で当たり前前に感じていることがどんなに大切かを実感した。例えば、日本では蛇口をひねれば水が出てくることは当たり前のように思われるが、それがどんなに恵まれていることかなどを改めて感じた。でも現地の人々は色々不便なこともある中で毎日笑顔で村全体の結束力が強くて羨ましく感じた。

この一カ月は間違いなく今までの人生の中で濃い一カ月であり、生涯忘れない思い出になった。本当に心の底からフィリピンキャンプに参加して良かったと思う。この18人で本当に良かった!!本当にありがとうございました。

なり

今回のサンタローサ村へのワークキャンプは1か月間があつという間であり、とても良い経験となった。そもそも海外へのワークキャンプというものは今回が初めてであり、キャ

ンプまでのミーティングを通して、子どもと関わるのが苦手だったのでうまくコミュニケーションがとれるか、生活習慣の違いに対応できるか不安ばかりだった。しかし、現地に行くとご飯は美味しいし、子どもたちから積極的に自分のもとの来るので関わりやすくとても充実した一か月を過ごすことができた。今すぐにでもサンタローサに戻りたいと思えることができて幸せだ。

私が気を付けようと思っていたことは、どんなに時間がなくてもキャンプ中毎日日記を書くことだ。その日の出来事やその日のお腹の調子をメモすることで日本に帰ってきて読み返すと鮮明に思い出すことができる。日記を読み返す限り、キャンプの最初の頃は、朝起きる時間は早いし外は暑いなどネガティブなことばかり書いてあるけど今の自分は早起きが普通であり、日差しすら恋しいくらい変わったと実感している。また、恋しい存在というものは数えきれないくらいあり、その中でも自分にフレンドリーに関わってくれた人たちが最も恋しい。朝から子供たちと触れ合い、夜になると青年や大人たちとお酒を飲みながらビーチで話をするのがどれほど楽しかったか日本に帰ってきて改めて実感した。その中でコミュニケーションの取り方に対して、現地の人々は英語がとてもうまく、日本語を教えるとすぐに覚え、会話で日本語を使ったりしていて賢い人が多いと感じた。逆に自分の英語はなかなか伝わらなく、自分の英語力がないことに気づきもっと英語力を磨く必要があると痛感した。

ワークに関して、地面を掘ってパイプを差し込みポンプとつなぐ作業が、気温などの関係で想像していた以上に体力を奪われた。ワークをするにあたって、水がどれほど大切であるかとともに、ワークに協力してくれる村人の大切さを実感した。日本では蛇口をひねったらどこでも水が出てくるのが当たり前だが、現地ではありえない。そう考えると自分は恵まれた環境で生活をしていると思った。ワークに参加してくれる村人は日本人よりもパワーがあり、日本人ができない作業を淡々とこなして見とれることが多かった。その中で村人と一緒にワークをすることで日本人と村人の距離が縮まるとともに、村人同士の距離も縮まった気がして嬉しかった。自分たちが頑張ってきたワークは最初の出だしが悪く、終わるのか不安があった分、すべてのワークが終わった瞬間は嬉しかったし達成感に溢れた。それは、日々ワークについての話をしてくれたワークリーダーとキャンプリーダーのおかげであり、とても感謝をしている。個人的には怪我が多くワークに万全の状態に参加できなかったことがとても悔やまれる。

最後に、日本に帰った今こんなに帰りたと思う場所があり、会いたいと思う人ができて幸せだ。会えないことは寂しいがフェイスブックで会話ができることが唯一の救いである。



またいつかサンタローサ村に帰ることができたらまた楽しく話したい。本当に充実した1か月を過ごすことができ多くに人々に感謝するばかりです。ありがとうございました。

たけしよー

“I miss you, but I will come back August!”

帰国前日のFarewell Partyでの私の発言である。自然に出た言葉だった。出国前には考えもしていなかった。『今回が最初で最後のキャンプ』と自分の中で決めていたが、1か月のキャンプを経て、想いは180度変わっていた。それほどまでに充実した1か月だったと思う。



大学に入学と同時にFIに入り、国内の活動には参加していたものの、大学とアルバイトを行き来するという平凡な毎日を過ごしていた。日本では味わうことのできない経験も大事かなと思い、サンタローサで1か月生活することを決めた。

フィリピンでの1か月、ずっと自分で考えていたことがある。『自分は何をしに来ているのだろう』と。出国前、日本で友達に聞かれたときは、「フィリピンにボランティアしに行く！」と答えていたのだが、ボランティアという言葉は、どうもしっくりこない気がする。

(げっしーも言っていたが(笑))今の自分の中のイメージは、現地で共同生活・共同労働したというものだ。まだワークに対しての実感がわからないのが正直な感想だが、夏にサンタローサに戻った時に実感できるのではないかと思っている。

実際、1か月間つらいと思ったことは一度もなかった。ただただ楽しい！そう思えた1か月だった。子供たちと遊んでいるときが一番充実していた。「たけしよー！たけしよー！」と、みんなが自分の名前を呼んでくれて、子供たちの方から寄ってきてくれる。青年や大人たちも、笑顔であいさつをしてくれる。フィリピン人はこんなにも優しいのかと驚いた。でも、こうしてサンタローサに着いてすぐに親しくしてくれるのも、下見キャンパーの努力があったからこそなのかなと感じる。下見のみんなには感謝しかない。私は次の夏もフィリピンに行くつもりである。(というか必ず行く(笑))ただただ、サンタローサのみんなに会いたいという思い一つである。でも、行くからには成長してサンタローサに戻りたい。今回は新キャンパーとして、げっしーや下見キャンパーに頼りっぱなしだった。もしかしたら、「自分がフィリピンに来る理由」も変わって見えるかもしれない。1年間自分と向き合い、誰かの役に立てるように頑張っていきたいと思う。

I love Sta. Rosa! I miss Sta. Rosa!! I will be back!!! Salamat!!!!

はるか

いつも通りにフィリピンでの日常が始まって、いつも通りに日本での日常が始まっています。さおちゃんがフェアウェル前日の朝学校で泣いていたのとフェアウェルでみゆが泣いているのを見たときに、来てよかったなと思いました。最初から最後まで口しか動かさない(キャンプ前～キャンプ中：口だけはやたら出す。フェアウェル～出国：ソカソカマシーンと化す。まじでごめんなさい。) 最年長でしたが、みんなの一步の助けに少しでもなることができたらいいなあと思っています。

今年のキャンプはフィリピンキャンプ 20 周年を目の前にして大きな転換期に(結果として)なったものでした。キャンプ直前にワーク内容がひっくりかえる。ロクロクさんも来られない。その中でキャンプをやり遂げたのだから、キャンパーのみんな、特に下見メンバーは自分自身をセレブレーションしてほしいと思っています(どこ目線だよという話ですが)。

20 年目のキャンプ、そしてこの次の 20 年のキャンプがどうなっていくのか、(今度こそ)10B として楽しみにしています。わたしも、微力ではありますが、大好きなフィリピンとフィリピンキャンプを支えていく一人であり続けます。

素敵なお村と家族に出会うことができ、幸せでした。キャンパー、サンタローサそしてタバゴの人々、ロクロクさんリックリックドドンボボン、FIWC 九州、その他全ての関わってくださったみなさんに感謝申し上げます。



みなみ

日本に帰ってきてから約二週間。フィリピンでの生活が恋しく、村人が恋しく、フィリピン帰りた！むしろ住みたい！！私はこの一ヶ月で完全にフィリピンの虜になった(^^)

私がこの一ヶ月で一番強く感じたことは、お金がある家庭の子、そうでない子に関わらず、子供達はみんな明るく元気で、そしてかわいいということ。また、村が抱える問題はたくさんあるかもしれないが、それを感じさせないくらいに村人達は、今の環境を工夫し協力し楽しんで生活している。裕福であるはずの日本人よりもよっぽどフィリピンの方が前向きであり、心が豊かであると感じた。

日本でミーティングをしていた頃は、ワークをすることによって、村人の生活にどれくらい良い影響を与えることができるのか、正直想像がつかなかった。実際ワークが始まると、バヤニハン（手伝ってくれる村人達）が頑張っている中、私には何も出来ないことも多々あり、自分が無力に感じてしょうがない日もたくさんあった。でも、ポンプが一個、また一個と出来るのにつれて少しずつ村人から「ありがとう」と言われる事が増えた。もちろん感謝



されるためにフィリピンに行ったわけではない。でもめちゃくちゃ嬉しかった。その言葉が聞けたときに、フィリピンに旅行ではなく留学でもなく、ワークをするという形で来て良かったと心から思った。

こんなにもフィリピン、村人の事を大好きになるなんて正直思わなかったし、与えるだけではなく、こんなにも村人から与えられるものが大きいとは思わなかった。私はフィリピンが、村人が、このフィリピンキャンプが大好き！あと、一回、二回じゃなくてきっと何回も行っちゃうんだろうなフィリピン（^^）
本当に皆さん SALAMAT（ありがとう）！！！！

ゆうた

フィリピンで過ごした一か月はとても暑い！！！！とにかく暑い！！イメージ通り暑かった。そんな暑い一か月を送ったわけですが、フィリピンでの思い出は村人とほぼ毎晩お酒を飲みながらいろいろな話をしたことですね。ワーク終わりに村人の家に行くとお酒を飲めるんです。最高です。キンキンに冷えたビール、そして近くには夕日がきれいなビーチ。もう最高でした。

今回のキャンプでいろいろなことを感じ、考えました。まずキャンプ前に自分が考えたのはワークを通して村人とどのように仲良くなれるのか、どのようにコミュニケーションをとるのかを考えていました。そこで出た答えはとりあえずワークを頑張ることです。このキャンプはワークをしに行くのも目的であるので当たり前なことなのですが、とりあえずめちゃくちゃがんばれば自分のこと認識してくれるのではないかと思ったからです。そしてこれをキャンプ中続けていると村人たちにワーク後によく酒を飲もうと誘われだしました。すると一緒に酒を飲んでいていた人の友人とも仲良くなっていき、ワークに参加できていない人ともコミュニケーションをとることができた。このワークをとりあえず頑張ることを続けていたら、村人からお前は働き者だ。俺たちのためにありがとう。と言われました。自分たち日本人は共同労働を行いに来ているので働くことはあたりまえだけど、すごくうれし

池ちゃん

私がこのフィリピンキャンプに参加した理由は、就職活動に役立てるためだ。大学時代にしか経験できないことをまだこの2年間してこなかったのでいい機会に恵まれたと思って参加を決意した。第1回～第7回までミーティングを重ねたが全然実感が湧かず、フィリピンで楽しめるかどうかやワークが現地にかかると分らなかったのでは出発するまでは楽しみより不安の方が大きかった。特にフィリピンで楽しめるかという点で大きく不安を



抱えており、自分が積極的に話しかけるほうではなかったため村人と仲良くなれるかや自分は本キャンパーだったので下見キャンパーと違ってこの村に行ったことがないので仲良くできるかどうかということでもの凄く不安であった。しかし、今となっては杞憂に終わったと確信をもって言える。それはなぜか。サンタローサ村の人々はとても優しく、とても面白く尚かつ社交的な人が多くいたためこの1ヶ月間あつという間な時間が過ごせた。

ワークでは基本的に、肉体労働中心だった。その中でフィリピン人との力の差であったり技術面でサポートが難しかったりと歯がゆい思いがあった。特にフィリピン人との力の差に関しては最初の方フィリピン人が「All Pilipino」といって日本人と交代したとき自分是对してやってもないくせに「休憩できる」と喜んでいて、だが、日数を重ねる内に日本人があまり役立ってないと感じたときにとっても悔しかったのは覚えている。そんな感じでワークに貢献できたかと言えばあまり貢献できたかとは言えない日々が過ぎてフィリピンキャンプの中盤を過ぎようとした時にロングミーティングがありみんなの話や思いを聞いたことにより、意識を入れ替えることができ積極的にワークに参加するようになった。自分ができることを探すようになり、ワークが楽しいと思えるようになったことでより充実した時間を過ごせるようになった。自分は自分の意識を変えてくれたロングミーティングに感謝している。それがなければ個人的にこのフィリピンキャンプをより充実させることは難しかったろうと考えるからだ。ワーク以外では、たくさんの村人と交流することができた。子供たちや青年、大人たちと遊んだり、お酒を飲んだり、冗談を言い合ったり、カラオケしたり、踊ったりととても楽しい日々を過ごした。総じて言えることが1つある。それは、みんな笑顔だということだ。みんなの笑顔を見る度に自分も嬉しくなり、この村が大好きになっていった。国籍は違ってもこの村の人たちは僕の親友であると心から言える。だから、この村にもう一度戻ってきたいと思った。

最後にこのキャンプでやったことはサンタローサの村の人々の生活にとって恩恵のあるもので、そこに携われたことは中々経験できるものではないと考える。自分たちが作ったポ

ンプを使っている人たちに「ポンプを作ってくれてありがとう」と言われたときはこのワークがしていることの大さに気づけた。今ではこの村にポンプを作ることによって生活を豊かにしてほしいと心から思っている。また、この村を訪れたときにさらにこの村がこのポンプを作ったことをきっかけに発展していったらいいなと願っている。最高の1ヶ月をありがとう！！

ひなこ

目を閉じるとサンタローサ村の光景が蘇り、村の子どもたちが「ひなこ！ひなこ！」と呼ぶ声が今にも聞こえてきそうだ。

非日常な生活を体験したい。

不安もたくさんあったが、私がフィリピンキャンプに参加した最初の理由だ。

村に着くとたくさん大人や子どもたちが歓迎してくれて日本で抱いていた不安が軽くなったような気がした。初めて村人と会ってやっとフィリピンで1ヶ月間生活をする実感が湧いたと同時に、ワークに対しても益々やる気が出た。

ワークは現地の人たちと共同で作業を行った。

しかし、専門的なことが増えてくると今何をしているか分からなくなる場面も正直少なかつた。技術面で日本人にはできないことがあると見ているだけの時間も生まれ、想像していたワークのイメージにずれが生じていた。現地の人の方が知識も技術も豊富であるのに、どうして日本人が現地へ行きワークを行う必要があるのだろうか、キャンプ前には予想もしなかつた疑問が心の中に引っかかっていた。

帰国するまでにこの疑問を解決し自分なりの答えを見つけなくてはと思考えた。

その時思い出したのがこの活動の目的としてチームが掲げていた「自立促進」だった。

この疑問が心に引っかかるまでは、自立促進という言葉に対してそれほど深く考えていなかったように思える。その時、この言葉の本来の意味やあり方について身をもって知れたよ

うな気がした。そしてワークに対してもっと積極的に参加したい、しなくてはいけないと感じた。初めてのフィリピンは何もかもが新鮮で、驚いたりウキウキしたり感動したり毎日様々な感情を抱いた濃い1ヶ月間だったと思う。途中、自分の考えや思いをうまく言語化できずモヤモヤとした気持ちがあったが、それが私の弱い部分だと改めて気づけたキャンプでもあった。村の子供たちはみんな素直で人懐っこくて可愛くて、大人は親切



で面白くて。そんな村人がいるサンタローサ村でもっと生活がしたいと思った。早くみんなに会いたい。もう一度サンタローサ村に行きたい。今はそんな気持ちでいっぱいだ。だから私はまたいつか必ず、フィリピンに行く。家族のような存在になった村人たちに会いに行きたい。

よこちん

最近フィリピンで知った曲ばかり聴いている。初めてのフィリピンはとても新鮮なことばかりだった。本当にフィリピンに行ってよかったと思っている。フィリピンに行こうと思ったきっかけは村で1ヶ月、フィリピン人と生活できるという点に魅力を感じたからだ。実際に行ってみて自分が期待していた以上の経験ができた。

まず、フィリピンで驚いたことはご飯が美味しかったことだ、フィリピンのご飯は美味しくないと思っていたけど自分はストレスをそんなに感じることはなかった。(たまに日本食が恋しくなったけど)そして次にサンタローサ村に到着した時の村人のすごい歓迎に驚かされた。子供たちは大声で下見キャンパーの名前を叫び、さらに多くの大人も日本人が来るのを楽しみに待っていてくれた。サンタローサの人々と良い関係を作ってくれた下見キャンパーに感謝です。

フィリピン人と仲良くなれるか少し不安だったけどあまり心配することもなかった。一緒に歌ったり、踊ったり、いろんなことを話したりして自分を知ってもらえればすぐに仲良くなれた。フィリピンでまた会いたいって思える大切な友達ができた。

ワークでは新たなポンプを作るときに地下水の所まで穴を掘る作業がとても大変だった。サンタローサ村の人々はとても力が強くて頑張り屋でワークの時にとても助けられた。エンジニアのドドンとリクリクはワークを中心になって引っ張ってくれたし、サンタローサ村は漁師をやっている男性がとても多く、早朝から漁に行っているのに漁が終わった後ワークを手伝ってくれる人もいて感謝している。

farewell partyで感謝の気持ちを伝えて良かったと思っている。新キャンパーとして村の人たちがどれくらい水に困っているのかはそこまで分からずにフィリピンに行ったけど作ったポンプを村人たちが使ってくれているのを見てとても嬉しかった。

サンタローサ村では朝の5時前後から爆音で音楽が流れ出す、一日中どこかの家から音楽が流れている。近所迷惑とかなないんだなあ。これが



文化の違いかと思った点である。また溜めた水で体を洗ったり、紙がなくて自分で流さなくちゃいけないトイレも最初は戸惑ったけどすぐに馴染むことができた。

日本に帰ってきてロクロクさんってすごい人だなって思った。何十年もFIとフィリピンを繋いでくれて本当にすごいなど。新キャンパーとして思う存分フィリピンを楽しむことができた。このような機会を与えてくれた下見キャンパー、そして新キャンパーのみんな、そしてFIに感謝しています。次は下見からワークを作り上げたいし、いろんな人にフィリピンキャンプを経験してほしい。また、ロクロクさんとFIで繋いできたフィリピンキャンプを続けていきたい。そう思います。もう一度フィリピンに行きたいです。(また戻ってサントローサのみんなに言ったからね)



Philippines camper

橋本尚樹 (九州大学理学部三年) : リーダー
高橋明里 (西南学院大学人間科学部三年) : ワークリーダー
四元惇人 (西南学院大学経済学部三年) : 副リーダー・会計
松本美祐 (九州大学医学部三年) : ワーク副リーダー・ホームステイ
坂本光希 (西南学院大学人間科学部三年) : SP・保健
飯盛彩貴 (中村学園大学栄養科学部三年) : ホームステイ・保健
西川大輝 (西南学院大学経済学部三年) : ワーク会計・KP
永吉彩桜 (西南学院大学文学部二年) : イベント・記録
矢崎雅乃 (西南学院大学文学部二年) : イベント
成清健史 (西南学院大学人間科学部三年) : ホームステイ
江崎大雅 (西南学院大学商学部三年) : KP
横光宏亮 (西南学院大学人間科学部二年) : ホームステイ
池田直樹 (西南学院大学経済学部三年) : イベント
三島はるか (九州大学農学部四年) : 記録
稲原佑太 (西南学院大学商学部三年) : イベント
日隈実奈美 (西南学院大学国際文化学部二年) : 保健
森日向子 (中村学園大学栄養科学部二年) : ホームステイ
竹田匠吾 (九州大学工学部二年) : 会計・記録



mail: fiwcq@hotmail.com
homepage: <http://fiwckyushu.jimdo.com>
face book: FIWC kyushu